

点である。第2は寒冷刺激に対応して、人間の生理的要求が充足されるべきであるが、積雪寒冷条件のため制約されて、不合理な食生活が営まれる結果、人間の健康にどのような影響を与えるかの2点である。本研究においては、特に冬期の食構造の問題点を抽出し、それを克服するための対策を見出すことを目的とした。

2. 積雪量が多く（平均最深積雪量 108 cm）根雪期間の長い（平均 168 日）地区を撰定し、対象農家に計器と黒板を与え、毎食の摂取食品を正確に可食部秤量し、365 日間にわたり、継続的に記入させ集計した。さらに調査による問題点を解決するために動物飼育試験も行った。つげもの、みそ汁中の塩分は炎光法により測定した。

3. 以上の方法で行った結果、調査の面では、積雪寒冷条件が食生活に必要な食品の連続的調達をはばむため、塩蔵野菜に依存する傾向が強く、このため低ビタミン高食塩食事となり、住民の健康に悪い影響を与えていることが判明した。そこで季節変動を支配している食品の生産構造の改善、低食塩クラウト法の研究、又動物飼育試験により、パントテン酸やコリン、メチオニンの摂取量を高めることによって、住民の冬期の健康特に血圧を正常に保つことができたので御報告したい。

A—22 積雪地寒冷地農村の食生活に関する研究 (第1報)

岩手大教育 鷹嶺 テル
○及川 桂子
赤沢 典子

1. 積雪寒冷条件が農家の家庭生活に及ぼす第1の問題は、食生活に必要な食品の連続的調達をはばむため、これに農家が如何に対応し、ゆがめられているかという